

令和6年度 第5回まちづくりミーティング

令和6年11月2日(土)18時30分～

四十万公民館

額、四十万、扇台校下(地区)

(1) 市長あいさつ

【村山市長】

皆さん、こんばんは。

令和6年度第5回になりますけれども、まちづくりミーティングに参加いただきまして、ありがとうございます。また、本日は足元のお悪い中、さらに今日、3連休の初日の土曜日となりました。こうした何かとお出かけにくい時間帯にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

さて、まちづくりミーティングでありますけれども、私が市長に当選したのが令和4年の3月ですけれども、その令和4年度、全地区でミーティングをさせていただきました。これは、昨年12月に策定をした新しい都市像、タイトルを「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」といいますけれども、その都市像の策定に向けて全ての校下からお話を聞きたいということで、一昨年度は全ての地区でお話をさせていただきました。そして、昨年度からまちづくりミーティングをこのような形で開催しております。これは、形を変えてもう二十数年間このような形で行っているということでもありますけれども、地域の課題について、地域の方と、そして市役所が共に考え、その対応策について、より解決につながるようなことを共に考えていこうという趣旨で開催しております。3年間で全ての地区を回るということにしておりまして、今年度はその2年目であります。

このまちづくりミーティングは名前を変えながら続けてきたわけですが、この扇台、四十万、額の3地区を対象に行うのはこれで6年ぶりということでもあります。途中、コロナ禍もあり、また、令和4年度の全地区を回る都市像を定めるためのミーティングもありましたので、この形になったものとしては6年ぶりという形であります。

この3地区については、金沢市の中で一番南に位置するという、野々市市、白山市とも非常に近いところにあるということ、さらには交通の課題などもありますので、本日はそういったことがテーマになって議論を深めることができると考えております。本日出

席している局長だけで課題が解決しないところも出てくるかもしれませんが、その場合は、また後日、追ってお答えするという形でお話をさせていただきたいと思います。

この会が充実したものとなることを期待して、そして我々としても一歩でも前に、課題解決に向けて進むことをお約束をして、私の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いたします。(拍手)

(2) 地域代表あいさつ

【四十万校下町会連合会長】

皆さん、こんばんは。日中、何かすごい雨が降りましてね、今日ちょっと心配していたんですが、今、大分よくなったようでございます。

今日は、先ほど市長さんも言われました3連休ということで、テレビを見ていますと今年最後の3連休だそうです。その3連休の初日の土曜日のこのような時間にお集まりいただき、本当にありがとうございます。

今ほど趣旨のほうは、市長さん、それから司会の方から言われていましたように、いろいろな課題等を話し合う会でございますので、今日は皆さん、額、扇台、四十万と3校下が今年順番で回ってきたようでございますので、皆さんにお集まりをいただきました。ありがとうございます。

今日は、そして市長さん、それから後ろのほうに地域の市議会の方もおいでますし、教育長さんをはじめ、局長さんクラスのそうそうたるメンバーがお越しでございますので、今日は皆さんのいろいろなご意見をお聞かせいただいて、この会が有意義な会になりますようご協力のほどよろしくお願いたします。本日はどうぞよろしくお願いたします。

(3) 地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、協議

額小学校の建替について(額校下)

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願いたします。

【村山市長】

額小学校の建て替えの関係を申し上げる前に、冒頭の挨拶で触れなければならなかったことが2点ほどございました。

1つ目は金沢マラソンについてです。先週末でありました。各地区からボランティア、ご協力いただきましたことに御礼を申し上げたいと思います。おかげさまで滞りなく開催をすることができたことに感謝を申し上げたいと存じます。

もう1点ですけれども、特に額地区では、額谷ふれあい体育館での能登半島地震からの避難者の受入れと、そしてそのボランティアでの炊き出しも含めてお世話いただいたということに感謝を申し上げたいと思いますし、各校下においてもそのお手伝いをいただいたということに感謝を申し上げたいと思います。そして各校下の中にも、能登地域からみなし仮設住宅という形、賃貸型応急住宅といいますが、そのような形で避難される方あるいは親族を頼って避難されているという方がいらっしゃると思いますので、ぜひ近くにいらっしゃったら声をかけていただき、あるいは公民館や町会、社会福祉協議会などをご紹介いただければと思っております。

さて、額小学校の建て替えについてでありますけれども、もちろん教育委員会のほうで所管する内容ではありますけれども、これから学校の建て替えが実は次々と出てきます。築50年を超えた建物が結構増えてくるという中であって、現在、長寿命化対策を行って、その老朽化に対してどのように建て替えをしていくかということも検討しております。

市としては、基金も積み増しをしながら建て替えの需要に応えられるように準備を進めているところであります。また、教育長から申し上げたとおりに、しかるべき時期に改築に向けた検討を始めていきたいと思っておりますので、またその際にご相談もさせていただきたいというふうに思います。よろしく申し上げます。

白山市 野々市市との連携（四十万校下）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【四十万校下町会連合会】

まず先日、1年前、僕、四十万小学校の育友会だったときに、ロケット公園の遊具がなくなったときにすぐ設置していただいて、誠にありがとうございます。その際に多分、当時の小学校6年生の子が市長室に行ってお礼を述べる会があったと思うんですけれども、そこである女の子が「四十万にはコンビニが一つもないです。何とかできませんか」という話があったと思うんですね。

実は、今その子中1になったんですけれども、たまたま先ほど、「今日こんなあるよ」ってなったら、「私、前こんなこと言ったのになかなかあれやったし、もう1回ちょっと言ってきてくれんか」と言われて、僕、今日その中学校1年生の子の気持ちも代弁したいなと思って来たんですけれども。

また、実は、タイムリーにちょうど昨日、都市整備局さんのまちづくり協定に参加させてもらって非常に勉強させていただいたんですけれども、僕、今回、この地域が考える対応策、解決策のところは3つ目としまして、平成14年に締結した四十万のまちづくり協定、ここの中身を見直したほうがいいのかなと思ってまして、多分これ、当時、平成14年にまちづくり協定をしまして、もう20年以上経過しているものでございます。中を見てみると四十万地区だけ非常に細かい数値設定がされてまして、僕もずっとここに住んでると、「四十万でお店出すと面倒くさいんだよね」というのを何件か事業者の方から聞いたことありまして、実際あの協定を見ると、一部の区間しか設定はされてないんですけれども、いわゆる風評被害といいますか、多分それがあって、四十万には何かお店が出しにくいみたい。だから今、確かにラーメン屋も1軒、薬局も1軒です。コンビニももちろんないですし、食堂も1軒という、確かに非常に不便なところでして、僕らPTAとしても、何か会合とか集まりとなったとしても、正直、やっぱり皆さん歩いて野々市で会合してるのが精いっぱいなので、そもそもまちづくり協定を見直したらいかがなのかなというのは、これ四十万校下の話なんですけれども、そこを何か一つ議論として始めていただきたいなと思ってます。

この規制にはポジティブな規制とネガティブな規制ってあると思うんですけれども、もちろんこのまちづくり協定って見ると、中心部のほうで今観光客も増えてきてますし、何かを規制するというポジティブな規制もあれば、何か数値目標とかでネガティブな規制もあるかなと思って見てたときに、僕、正直、四十万は20年たってる、ここをぜひ見直していただきたいなと思って、3つ目にそこを何か追加していただければなと思い、発言させていただきました。

【高木都市整備局長】

まちづくり協定を所管しております都市整備局でございます。

四十万地区のまちづくり協定が平成14年に策定されて、それ以後、見直しがなされてないというお話がございました。

ほかの地区でもかなり古くに策定されて、そのまま運用されているところもあれば、途中で何度か見直しをした区域もございます。確かに内容的にはポジティブなものもあればネガティブなものもあると、それはおっしゃるとおりでございます、やはり時代の変化に応じて、必要とあらば見直しをするということは可能でございます。地域の皆様と勉強会等も重ねながら、必要なところは見直しをしていきたいと思っております。

先日もまちづくり協定の連絡協議会にご参加をいただきまして、ありがとうございます。その協議会は、ほかの地域でこういった内容のことを協定に盛り込み、また活動されているかということを知っていただく貴重な機会だと思っております。ほかの地域とも比べながら、ご自分のお住まいの地域をよりよくするために協定の内容を見直していくということは、これは必要なことだと思っております。またお話をいただければ、市の職員もお伺いをさせていただいて勉強会等を繰り返していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【四十万校下町会連合会】

連長が先ほど説明されましたように、村田製作所が避難所として当校下と連携というんが協力依頼の契約をしました。ところがそのときに、これはもうちょっと時間がたつてますから現在どうなってるか分かりませんが、金沢市はそのことについて協力をしていただけなかったというふうに私は聞いております。なぜ金沢市は、一企業との契約というのか、その協力依頼を正式にできないのか、その疑問が1つ残っております。

それから、先ほど説明ありましたのっティの問題ですが、これはもう本当にずっと以前からの懸案です。それをいまだに同じような回答ばかりでは、住民としてちょっと納得し難いです。それでなかったら、市のほうのバスを中心部ばかりでなしに、郊外のほうへも回していただくか、または公共の建物を四十万のほうに持ってきて人流を促進することができれば、またそれぞれの商店も活発になるんでないかという思いもあります。

一端ではありますが、このことをよろしく願いしたいと思います。

【山崎危機管理監】

ありがとうございます。

当時のことは、今ちょっと手元に資料がないものですから、一度帰って確認はさせていただきたいと思いますが、避難所につきましてはいろいろ問題はあると我々も思っており

ます、この地区だけではなくて。今現在、石川県が令和7年度の最初に、地震の被害想定の見直しの新しいものを出すことにしております。当然今回の地震を踏まえて、どういふふうに被害が起きるのか、その内容を見直すことにしております。金沢市としては、その石川県の見直しに合わせまして、金沢市の地域防災計画も見直しをすることにしております。その中で、避難所の在り方についても検討をしていくということで、今、内部で準備を進めているところです。

先ほどもありましたように、実は村田製作所さんは白山市さんの行政区域の中にあるものですから、金沢市がダイレクトにどうこうというのが多分その当時にあったのではないかなとは思いますが、今回、1月1日の地震等々を踏まえて、そんなことは言っていないなと我々は思っています。ですので、先ほどもありました4市2町の枠組みの中で当然避難所としてのいろんな話をして、金沢市から行政をまたぐだけけれども、避難していけるところがご協力いただけるのであれば、それは行きたいなというふうにも我々は考えています。当然その中に、金沢市内の商業施設さんにもご協力をいただけないかなということで、我々としてもどういうアプローチがいいかというのを今の段階から少し考えているところでございます。

そういうところも含めまして、避難所については、行政の施設、民間さんの施設も含めまして、来年度本格的に検討していきたいなと思っておりますので、内容等々皆様にお知らせできるようになればまたそれをお知らせしたいと思っておりますので、そういう中で少し検討させていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

【村角都市政策局長】

公共交通のことについてご意見いただきました。ありがとうございます。

まず、のっティにつきましては、先ほど申し上げた野々市市の見解はご理解いただきたいと思います。今後、地域を取り巻く環境が変わっていく中でどういった対応が可能なのか、課題感を持ちながら、引き続き研究を進めていく必要があると思っております。

一方で、市内中心部を走っている本市のコミュニティバス「ふらっとバス」につきましても、令和3年の4月から、昨今の運転手不足等によりまして運行本数を減らして運行している状況です。令和3年以前のまま、ふらっとバスを運行させようと思うと、通常走っている路線バスの運転手の確保がなかなか難しいという状況でございます。

路線バスにつきましても、市内で便数が減便になったり夜の時間帯が少し早まったり

と、さらには北部のほうでは路線そのものが廃止になったりという状況となっています。そういった中で、市民の足、買物や通勤通学の足として公共交通をどうやって確保していけばいいのか、これは喫緊の課題だと思っています。

まずはお乗りいただくというのが何より重要です。ただ、お乗りいただく際には公共交通の利便性を高めていくことも必要でありますし、運転手を確保していくための対策も講じていかなければならないと思っています。多角的な視点から公共交通にかかる課題を一つ一つ解決をすることによって、公共交通の確保と利便性の向上に引き続き努めてまいります。貴重なご意見ありがとうございます。

【村山市長】

ありがとうございます。

この件については、3点ほどまず申し上げたいと思います。

現在、地域防災計画の見直しを行っているという発言が、危機管理監のほうからありました。通常であれば、県が被害想定の見直しを行って、それを踏まえて検討を始めるというのが本市の地域防災計画の見直しの流れではありますが、今般の能登半島地震が起きて、金沢市内の避難所開設も含めた対応がどうだったのか、できたことがどうで、できなかったことがどうかということの整理を行った上で、さらにこの地震が森本・富樫断層で起きた場合に対応ができるかどうか、さらには、今回津波の警報も出ましたけれども、そういったことに対応ができるのかということが多角的に検討するため、能登半島地震の課題検証会議というのをを行っています。これを踏まえて、今後出される県の被害想定を踏まえた上での地域防災計画の見直しというのを現在行っております。

先ほど申し上げた「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」という都市像に基づく未来共創計画という計画の中でも、民間事業者との連携というのを大きくうたっております。いざ災害が起きたときには、金沢市や地域の方々の手だけでは、一時期に多数の課題が出てきますので対応ができない部分がありますので、そういったところについても民間事業者これからお願いしていくところが多いであろうと想定をしております。それも含めてこれから対応を進めていきたいと思っています。

2つ目が公共交通の話であります。コロナ禍があって、そして公共交通の利用者数が一気に減ってしまいました。それによって公共交通を担う民間事業者は、非常に苦しい状況にあります。加えまして、2024年の4月から導入された労働者の労働時間規制によりまし

て、昨年と今年と交通事業者では廃止、減便が相次いだところがあります。そういったことにも対応するために、金沢市あるいは近隣の市町と一緒に、石川線、浅野川線のみなし上下分離方式について今進めていくことにしております。これによって行政が一定程度の負担を行うわけではありませんけれども、民間事業者に対してもその分サービスを向上するようにというふうに申していて、石川線の増便も含めたサービス水準の向上について申入れをしております。野々市へのアクセスも大事なんですけども、金沢へのアクセスについてというところについては、こうした運転手の確保対策であったり、あるいは鉄道線の利便性の向上、こういったことも含めて対応していきたいと思っています。

もう1点、まちづくり協定のお話もいただきました。時代に応じて人口構成も変わってきている、そして求める形が変わってきているという中であって、まちづくり協定をいかに定めるかという、協定をするまでのハードルが高かったと思いますけれども、その時代の要請に合わせて、また見直しも必要だと思っています。これから先必要となる地域づくりのためにどのような協定が必要になるか、改正も必要であればまた市のほうにも相談いただきたいと思ひますし、地元のほうでも協議をいただければと思ひます。

ハクピシンと空き家（扇台校下）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願ひます。

【四十万校下町会】

今ほど最後のほうにお話しなされたハクピシンが嫌がる薬剤散布、このプリントには入っていないようですけれども、その薬剤は無償提供していただけるのでしょうか。

というのは、私の住んでる三十苅南町会の神社にすみついてるということで近所から苦情が来ております。その散布剤を頂けるんだったらまいてみたいなという思いで今発言に至りました。よろしく願ひします。

【越山環境局長】

初見の場合は、市の職員が行って、こういう忌避剤がありますということを見せて、職員がまきます。ただ、次回からはご自分でというか対策する方で購入いただけてまいりたい。

ホームセンターへ行けば、基本的にはいろんなものを売っております。液状のもの、顆粒のもの、固形のもの、いろんなものが売られていて、液体のものであれば500ミリリットルで3,000円か4,000円ぐらいするかなと、ちょっと値段高めですけど売っておりますが、聞いたところ、非常に効果はあるというふうに聞いてます。一度まくなかなか来ないと。動物ですので1回嫌な思いをすくなかなか近寄らなくなってくるので、効果は比較的あるというふうに聞いてますので、ぜひやっていただければと思います。初見であれば環境政策課のほうにご相談いただいて、職員が伺うと思いますので、またご相談いただければと思います。

【扇台校下町会連合会】

同じようなことなんですけれども、うちは初見でサンプルを頂いてちょっと効果見てみたんですけれども、これ補助金に関しては出ないんですかね。これは別に資格とかもないので、一応補助金出してもらえれば2,000円、3,000円かかっても補助金で賄えるということになれば、今後のことを思えば助かるんですけれども、どうですかね。

【越山環境局長】

忌避剤に対して補助金をという、そういうご要請ですね。

金額的にそこまで高価でないという部分もありますし、ほかの自治体がどのような対策をしているかというところ等も、そこは研究課題だなというふうに思っております。

【扇台校下町会連合会】

検討の余地はあるということですかね。

【越山環境局長】

ただ、金額がそこまで高くないものですから。それは、やはり通常ご自宅の進入口を塞ぐ、それも基本的にはご自分の負担でやっていただくということですので、ご自分のお宅にまく忌避剤というのはご自分でご負担いただくというのが通常かなと思っております。

【扇台校下町会連合会】

それは市のほうでの見解ということで理解していいですか。

【越山環境局長】

はい、結構です。

【村山市長】

この鳥獣保護管理法って何であるのかなと思っています。ハクビシンも当地だけではなくて、金沢市役所の近くの茶室の屋根裏に居座っていたり、長町、長土堀でも話に出きました。もうどこにもいるし、忌避したところで、どこかに行くだけですよね。

カラスの問題などもあるので、法改正あるいは特区申請など何か要望等で上げてもいいのかなと考えています。絶対にありがたいものではないものをなぜ保護しなければいけないのかというのが非常に不思議です。最初に法律ができたときには、銃で勝手に捕獲したりすると人的な被害を与えるかもしれないとか、そんなことだったと思うんですけども、なぜ保護しなければいけないのかは意味が分からないので、私としても憤りを感じています。

すみかとなる空き家については、今、都市整備局建築指導課のほうで、終活といいますが、その家を畳むときにどのように家进行处理するかということをあらかじめ検討しておいてもらいたいということ、いろんなところ、機会を通じてお話をしています。例えば、いざ何か事故などがあって亡くなるかもしれないときに、その家を誰に任せるか、そして高齢者施設に入るときに、もう戻る可能性が少ないのであればどうするかということ、あらかじめ相続する方々にお話をしておいてもらいたいと。そうしないとうこういった空き家が増えてくるとというのは、これからまた高齢社会を迎えるに当たってかなり増えてくる可能性があると思っています。そういった啓発活動を進めていきたいと思いますので、ぜひ町会などにもご協力をいただければというふうに思っております。

(4) 共通課題について

高齢化（運転免許返納等）にともなう、移動手段の確保

「共通課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【村山市長】

この課題については、局長から申し上げたとおりであります。公共交通、厳しい状態になっているという中であってではありますけれども、高齢社会がこれから進んでいくに伴って、高齢者の運転免許の返納と、そして健康の増進というところ、病気にならないためには、やはりなるべく多く日頃から外に出ていただく機会を増やす、それが体の健康と心の健康を保つために大事であると思いますので、外出機会、そして移動の機会の確保というのは非常に重要な課題であると思っております。

そうした中でこういった形が一番望ましいかということ、先ほど申し上げたとおり、都市政策局あるいは交通政策課という担当課になりますけれども、共に話をさせていただければというふうに思います。

(5) 質疑応答、意見交換

【額校下町会連合会】

額小学校の建替についてというところで、参考資料で耐用年数という表記がありまして、この耐用年数と耐用寿命というのが全然全く内容が別なんです。耐用年数というのは、耐久性とは別に定まる税務上の減価償却の算出の係数というふうなことからしいんですが、この対応寿命でいうとどのようにお考えになられているのか、ちょっとお聞かせいただきたいと思いますが、お願いします。

【野口教育長】

金沢市の市有施設ストックマネジメント計画というものがございます。その中で、全ての公共的な施設について、まず一定の使用年限を決めまして、その年限を耐用年数と捉えていただければと思いますが、必ずしもそれを守らなくてはならないということはないと思っています。耐用年数が過ぎても様々な手立てを講じながら、さらに使うことが可能であればそれを使うことになってくると思っています。そのことが耐用年数と耐用寿命という言葉の違いとお取りいただければと思います。

【額校下町会連合会】

ありがとうございます。ということであれば、耐用年数で表現しますと、10年をめぐりに建て替えを検討していかなければならないという、そういった認識でよろしいですか。

【野口教育長】

その辺りを想定しながら、これから教育委員会の中で考えていきたいと思います。市長もお触れになりましたけれども、金沢市内には同じような時期に建てられた学校がたくさんございます。この近辺では、富樫小学校も同じ時期だったと思いますし、米丸小学校もそうだったのではないかなと思っています。北部では、小坂小学校とか同じような時代にできた学校がありますので、そうした学校について勘案しながら、教育委員会で計画等も作らせていただければと思っております。

なお、自分たちは歳費を持っておりませんが、市の財政事情等もありますので、そのことも考えていかないといけないのかなと、これは老婆心ながら教育長として思っております。

【額校下町会連合会】

額小学校は多分、市内で6番目に古い小学校なんじゃないかなと記憶してるんですが、額の前に5校がその対象になっているということであると思うんですが、地元では放課後児童クラブも額校下に、地元の地域の集会所を間借りしてるということもありますので、今新しく建ちます小学校が、中に放課後児童クラブが併設して入ってるというふうな、そういった小学校が基本的になってきてるんじゃないかなということを思っまして、そうなると、やっぱり少しでも早いタイミングで建て替えにという方向であれば、そういった放課後児童クラブの、また今後の方向性も定めていけるんじゃないかなということも思っまして、ちょっとその辺のお考えをお願いします。

【野口教育長】

ありがとうございます。

放課後児童クラブにつきましては、教育委員会もそうですが、こども未来局も一緒になって担当しております。全国的に見て、働き手が不足しているという状況が見てとれます。10年ほど前に東京に行った時、コンビニ等で外国人スタッフの方が随分多いなという感じを受けたのですが、最近、金沢のまちを歩いてみて、ホテルやコンビニでも外国人スタッフが増えてきたなという実感を持っています。地方にも働き手不足が波及してきているのかなと思っています。

もう一つは、金沢市の一つの特徴として共稼ぎのご家庭が多いということです。長く学

校に勤務していましたが、共稼ぎのご家庭が多いということは感じていました。

そうした中で、本市におきましては、放課後児童クラブのニーズが非常に高いということを感じています。こうした放課後児童クラブの運営等にあたりましては、やはり経費等が生じてまいります。この放課後児童クラブを確保するというところで各市域の方々がご苦労されていることもよく認識をしております。

放課後児童クラブには大きく分けるといくつかの形態があると思っています。まずは、地域の中で施設を確保していただくというのが大原則であると思っています。私は、弥生小学校に勤めていましたが、弥生公民館の中に放課後児童クラブと児童館が併設されているというところもあります。また、今お触れになりましたけれども、学校の中に放課後児童クラブを設置されているところもあります。これにつきましては、空き教室があればということが大原則ですし、新しい学校を建てる時には地域の方々との協議の上で設置することもあるということを知っております。地域内の施設、公民館との併設、それから学校内の空き教室があるかどうか、新しい学校を造るときの協議、この3つのパターンがあるのではないのでしょうか。

額小学校につきましては、冒頭で説明させていただきましたが、学校はあと10年で、それから体育館は18年で耐用年数をむかえます。その時期あたりで協議が始まっていくのだろうと思っています。学校内に設置するときには、入り口を分けないとはいけません。また、運営が始まってから、教室の中だけではなく、体育館なども使えないかという要望なども出てくる場合もあります。これから、この額小学校を改築するという段階で、これは個別の案件でありますので、こども未来局を交えて話し合いをさせていただければと思っています。

【扇台校下町会連合会】

防災の関係の質問なんですけれども、先ほどの避難所の情報の件で、金沢市内の避難所の情報は手に入るんですけれども、例えば隣接する野々市市とかの避難所の情報というのは共有できないかということなんです、その辺、例えば結ネットなんかを使ってそういう情報も流していただけないかということかという質問です。

【山崎危機管理監】

ありがとうございます。

結ネットの運用については、我々も今どういうふうな形でどんな情報を出せばいいのかというのを、市民局とか、あと町会連合会のほうにもお声がけをさせていただいて協議はしておりますので、もしそういう有効な形で出したほうがいいのかということであればそういう検討はしていこうかなと思っています。

今現在、金沢市以外の避難所の状況等については石川県のホームページから見る事ができます。今、細かい資料がないんですが、石川県のホームページから県内19市町の全ての自治体の避難状況が分かるホームページというのが既にセットをされておりまして、それを見ると、例えばここで行きますと白山市、野々市市が隣接するところになりますので、その地域のどこの避難所が開いててどうなってるかという状況が分かるところがございます。石川県のホームページから少し行っていただくと分かりやすいかと思いますが、当然そこには金沢市の避難所の開設状況も一緒に分かるようになってます。なので、県のホームページ等々を通じて、まずそういうところからも情報を取っていただければなというふうに思っています。もし分からないようでしたら危機管理課のほうに一度お問合せをいただいで、ホームページのどこを見ればいいのかということを一度聞いていただければ、すみません、今日資料がないのでお話しできないんですが。

ただ、結ネットにつきましては、今ほどもありました今年の能登地震を踏まえている課題があると。特に情報出し、市民の皆様どんな情報をどういうときにどう適時に出せるかどうか、やっぱりそこも一つ課題ということに挙がっていますので、そういうところの中で少し検討をさせていただいて、またお話をさせていただければなというふうに思っております。よろしく願いいたします。

【扇台校下町会連合会】

ありがとうございます。よろしく検討をお願いします。

【額校下町会連合会】

古紙の資源回収というのが随分減っているということについてお話をさせていただきたいと思います。

額校下では平成30年まで、小学校のPTA、小連、それから中学校、婦人部等が主体になって古紙回収を行っていました。その後、金沢市さんのほうからいろいろ働きかけと申しますか、町会連合会でしたらどうですかねというふうなお話も、当時のリサイクル課で

すかね、何かそういうところからも働きかけがあったということ。時期が重なってということが同時に、古紙の回収時のときに、保護者と申しますか子供さんとかもちょっと絡んだ交通トラブルもございまして、それならそれはいいことでないかということで、そっちのほうに方向転換をさせていただきました。

回収量が年々ものすごく減少しているんですけど、PTAで回収しておったときは年間大体200トンから250トンぐらい、10年前でそれぐらいの回収量があったんですけど、2020年から町会連合会で回収を始めたんですけど、その時点で回収量が半分以下に減りました。その後ずっと昨年まで年間10トンぐらいの資源の量が減っているというふうな状況が続いているということです。

そういうことから、ごみの資源化ということを推進するためにも、大変厳しい状況ですけど、このまま減っても仕方ないというような、そういうことではやっぱりよくないと思いますので、その辺りの対策というものを、私らの町会連合会と、また地元としてもいろんな方面から工夫しながら何かできないかということで、市当局さんの前向きな対策と申しますか、一緒になってその対策をさせていただきたいなというふうに思っていますので、よろしく願いいたします。

【越山環境局長】

ありがとうございます。

現在、金沢市、指定ごみ袋収集制度を導入をしております。この指定袋の導入制度を導入してから、市民の、ごみの減量化であったり資源化という意識は向上している状態です。

さらに、例えば最近はお歳暮とかといっても簡易包装にしてもいいですかということで、すごく簡易包装が普及してまいりましたし、何といてもコロナ禍と合わさったデジタル化、これによって紙自体をすごく使ってる量が激減しているというのがございます。コロナ禍という生活の中で人と接しないというような、そんな生活スタイルにも変わりつつあるものですからなかなか、スーパーマーケットとか古紙回収業者が設置する回収拠点へ自分は直接持っていくわと、そういう地域の回収拠点じゃなくて直接持っていくほうがいいわというような方も実は増えておるのが事実なんです。その結果、地域での古紙の回収量というのが減少してます。それはこの地区だけではありません。市全体で地域での回収量というのは逆に減っています。

紙自体の使用量が減ってるので、古紙の回収量自体、市全体でも減ってるんですけど

も、それでもやっぱりいろんなところで集団回収、スーパー行っても、ここに紙置いてっていいですよみたいな取組があると、いわゆる毎日スーパーへ行くときに自分で束ねた新聞紙をそのまま持って、重いし出しに行くわみたいな、そういう人が増えてきていることも事実です。町会の集団回収、大体月1回ステーションとかでやってるんですけども、朝何時から何時まで出してくださいねとかとなると、「今日忘れたわ」とかと言って結局はそこに出さないという人がだんだん増えてきているというのも実情だと思っています。

ただ、ちょっと古いんですが令和4年度の、ごみの組成調査といってごみの中身を開く調査をした結果、まだ燃やすごみの中に14%は紙ごみが入ってます。ですから、そういうものもぜひ古紙回収に出してほしいというのが我々の思いです。当然、地域での古紙回収というのは、そういう地域の絆を深めたり、あとは教育環境にもつながるといふふうに思ってますので、何かいい方法がないかということは我々も地域の皆さんと協議しながら考えていきたいというふうに思っています。

(6) 市長まとめ

【村山市長】

非常に熱心にご議論いただきまして、ありがとうございました。幅広く意見交換ができたということが、我々にとって勉強になりました。そして、この地域だけではなく、今後全市で課題となるであろうということも発見できたと思っております。これからいよいよ令和7年度予算編成に向かうわけですが、その中であっても、よりよい市政を加速していくためにもこういった意見交換の重要性を感じたところでもありました。

今後とも、また各局長あるいは市民局、市民協働推進課なども通じてご意見もいただければというふうに思います。

本当に長時間ありがとうございました。お疲れさまでした。